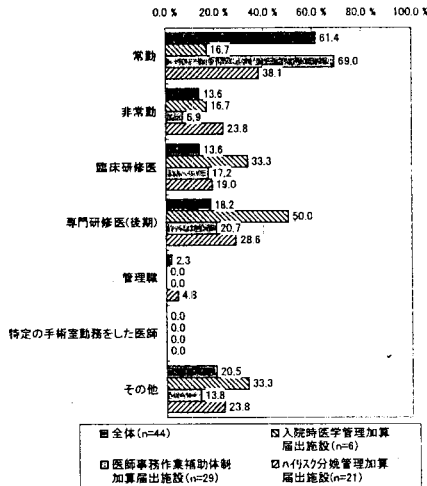


特定の医師に基本給を増やしたという44施設についてその対象となった「特定の医師」の内容をみると、全体では「常勤」(61.4%)が最も多く、次いで「専門研修医(後期)」(18.2%)、「非常勤」(13.6%)、「臨床研修医」(13.6%)、「管理職」(2.3%)の順であった。

施設基準別にみると、「入院時医学管理加算」の届出施設では「専門研修医(後期)」が50.0%、「臨床研修医」が33.3%と、他の施設基準届出施設と比較して高かった。「医師事務作業補助体制加算」の届出施設では、「常勤」が69.0%で最も多く、他の施設基準届出施設と比較しても突出していた。「ハイリスク分娩管理加算」の届出施設では、「常勤」(38.1%)が最も多く、次いで「専門研修医(後期)」(28.6%)、「非常勤」(23.8%)、「臨床研修医」(19.0%)、「管理職」(4.8%)であった。

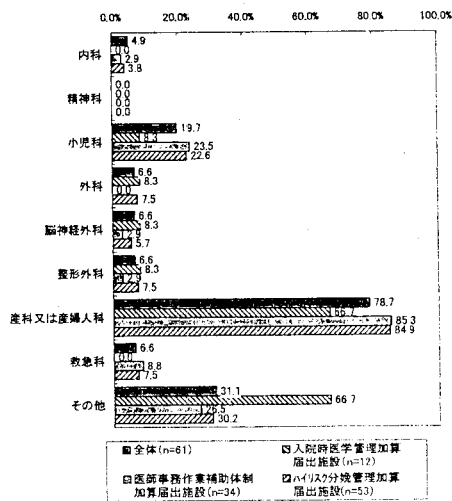
図表 52 基本給を増やした特定の医師 (複数回答)



特定の診療科に勤務する医師に対して「手当を増やした」という61施設について、手当を増やした特定の診療科の内容をみると、全体では「産科又は産婦人科」(78.7%)が最も多く、次いで、「小児科」(19.7%)となった。

施設基準別にみると、いずれの届出施設においても「産科又は産婦人科」が最も多かった。特に「医師事務作業補助体制加算」の届出施設、「ハイリスク分娩管理加算」の届出施設では85%前後と高かった。

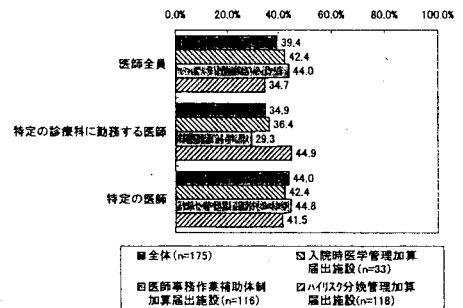
図表 54 手当を増やした特定の診療科 (複数回答)



「手当を増やした」という175施設に対して、その対象の医師の内容をみると、全体では、「特定の医師」が44.0%で最も多く、次いで、「医師全員」が39.4%、「特定の診療科に勤務する医師」が34.9%となった。

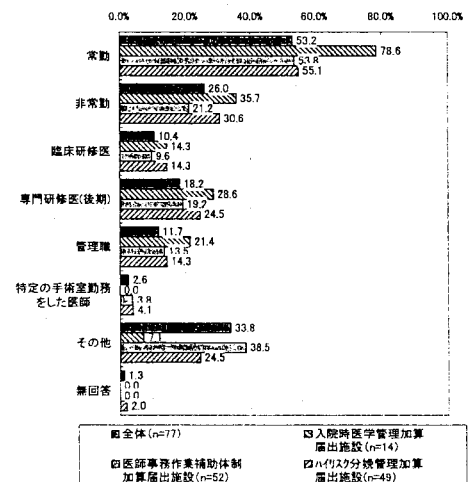
施設基準別にみると、「入院時医学管理加算」の届出施設では、「医師全員」と「特定の医師」(42.4%)で最も多く、次いで「特定の診療科に勤務する医師」(36.4%)であった。また、「医師事務作業補助体制加算」の届出施設では、「特定の医師」(44.8%)が最も多く、次いで、「医師全員」(44.0%)であった。「特定の診療科に勤務する医師」(29.3%)は他の施設基準届出施設と比較すると低い割合となった。「ハイリスク分娩管理加算」の届出施設では、「特定の診療科に勤務する医師」(44.9%)が最も多く、次いで、「特定の医師」(41.5%)、「医師全員」(34.7%)となった。

図表 53 手当を増やした対象の医師 (複数回答)



特定の医師に対して「手当を増やした」という77施設について、その対象とした「特定の医師」の内容をみると、全体では「常勤」(53.2%)が最も多く、次いで「非常勤」(26.0%)、「専門研修医(後期)」(18.2%)であった。この傾向はどの届出施設においても同様であり、「入院時医学管理加算」の届出施設では「常勤」が78.6%、「非常勤」が35.7%、「専門研修医(後期)」が28.6%であった。「医師事務作業補助体制加算」の届出施設では「常勤」が53.8%、「非常勤」が21.2%、「専門研修医(後期)」が19.2%であった。「ハイリスク分娩管理加算」の届出施設では「常勤」が55.1%、「非常勤」が30.6%、「専門研修医(後期)」が24.5%であった。

図表 55 手当を増やした特定の医師 (複数回答)

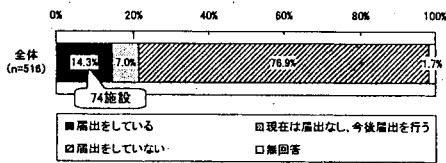


⑤入院時医学管理加算について

1) 入院時医学管理加算の届出状況

入院時医学管理加算の届出状況についてみると、「届出をしている」が14.3% (74施設)、「現在は届出し、今後届出を行う」が7.0%、「届出をしていない」が76.9%であった。

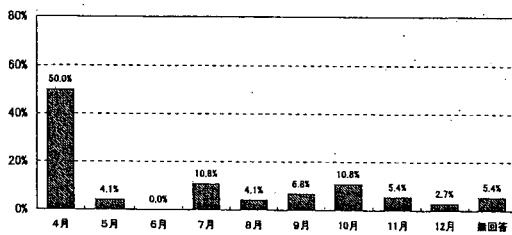
図表 56 入院時医学管理加算の届出状況



2) 入院時医学管理加算の届出が受理された時期

入院時医学管理加算の届出が受理された月についてみると、「4月」(50.0%)が最も多く、次いで「7月」、「10月」(ともに10.8%)、「9月」(6.8%)であった。

図表 57 入院時医学管理加算の届出が受理された月 (n=74)

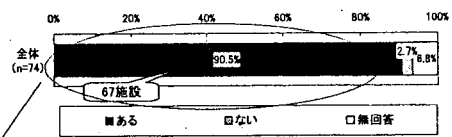


3) 初診に係る選定療養(実費徴収)の状況

初診に係る選定療養(実費徴収)の状況についてみると、「ある」が90.5% (67施設)、「ない」が2.7%であった。

初診に係る選定療養(実費徴収)が「ある」と回答した67施設について、1回あたりの選定療養(実費徴収)の金額をみると、平均は2,234.7円(標準偏差1,354.8、中央値2,000)であった。

図表 58 初診に係る選定療養(実費徴収)の状況

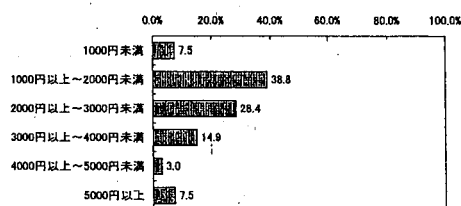


図表 59 初診に係る選定療養(実費徴収)の1回あたりの金額 (n=67)

	平均値	標準偏差	最大値	最小値	中央値
初診に係る選定療養(実費徴収)額(円)	2,234.7	1,354.8	8,400	530	2,000

初診に係る選定療養(実費徴収)の1回あたりの金額の分布についてみると、「1000円以上~2000円未満」(38.8%)が最も多く、次いで「2000円以上~3000円未満」(28.4%)、「3000円以上~4000円未満」(14.9%)であった。

図表 60 初診に係る選定療養(実費徴収)の1回あたりの金額・分布 (n=67)

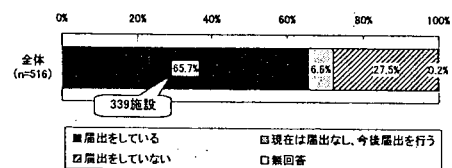


⑥医師事務作業補助体制加算について

1) 医師事務作業補助体制加算の届出状況

医師事務作業補助体制加算の届出状況についてみると、「届出をしている」が65.7% (339施設)、「現在は届出し、今後届出を行う」が6.6%、「届出をしていない」が27.5%であった。

図表 62 医師事務作業補助体制加算の届出状況



4) 平成20年10月1か月間の手術件数等

平成20年10月1か月間の手術件数等についてみると、「全身麻酔」は平均206.6件(標準偏差117.2、中央値182)、「人工心臓を用いた手術」は平均4.1件(標準偏差5.4、中央値2)、「悪性腫瘍手術」は平均51.6件(標準偏差39.4、中央値43)、「腹腔鏡下手術」は平均26.8件(標準偏差28.4、中央値17)、「放射線治療(体外照射法)」は平均413.7件(標準偏差425.6、中央値352)、「分焼」は平均47.1件(標準偏差29.2、中央値45)、「緊急帝王切開」は平均7.5件(標準偏差6.0、中央値6)であった。

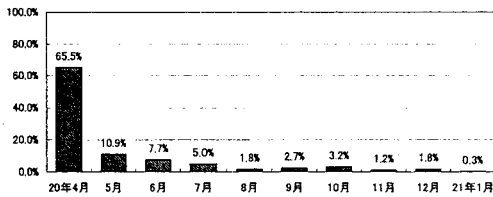
図表 61 平成20年10月1か月間の手術件数 (n=68)

	平均値	標準偏差	中央値
①全身麻酔(件)	206.6	117.2	182
②人工心臓を用いた手術(件)	4.1	5.4	2
③悪性腫瘍手術(件)	51.6	39.4	43
④腹腔鏡下手術(件)	26.8	28.4	17
⑤放射線治療(体外照射法)(件)	413.7	425.6	352
⑥分焼(件)	47.1	29.2	45
⑦緊急帝王切開(件)	7.5	6.0	6

2) 医師事務作業補助体制加算の届出が受理された時期

医師事務作業補助体制加算の届出が受理された時期についてみると、「4月」(65.5%)が最も多く、次いで「5月」(10.9%)、「6月」(7.7%)、「7月」(5.0%)であった。

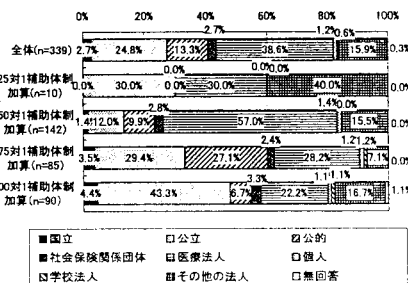
図表 63 医師事務作業補助体制加算の届出が受理された時期 (n=339)



医師事務作業補助体制加算種類別の開設主体についてみると、全体では「医療法人」(38.6%)が最も多く、次いで「公立」(24.8%)、「その他の法人」(15.9%)、「公的」(13.3%)であった。

施設基準別にみると、25対1補助体制加算では「その他の法人」(40.0%)が最も多く、次いで「公立」(24.8%)、「医療法人」(30.0%)となった。50対1補助体制加算では「医療法人」(57.0%)が最も多く、次いで「その他の法人」(15.5%)、「公立」(12.0%)となった。75対1補助体制加算では「公立」(29.4%)が最も多く、次いで「医療法人」(28.2%)、「公的」(27.1%)となった。100対1補助体制加算では「公立」(43.3%)が最も多く、次いで「医療法人」(22.2%)、「その他の法人」(16.7%)であった。

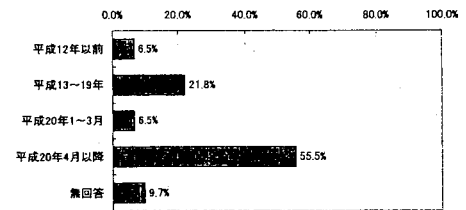
図表 66 医師事務作業補助体制加算種類別 開設主体



3) 専従者の配置時期

専従者の配置時期についてみると、「平成20年4月以降」(55.5%)が最も多く、次いで「平成13～19年」(21.8%)、「平成12年以前」(8.5%)、「平成20年1～3月」(6.5%)の順であった。

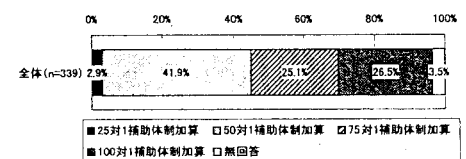
図表 64 専従者の配置時期 (n=339)



4) 医師事務作業補助体制加算の種類

医師事務作業補助体制加算の種類についてみると、「50対1補助体制加算」(41.9%)が最も多く、次いで「100対1補助体制加算」(26.5%)、「75対1補助体制加算」(25.1%)、「25対1補助体制加算」(2.9%)であった。

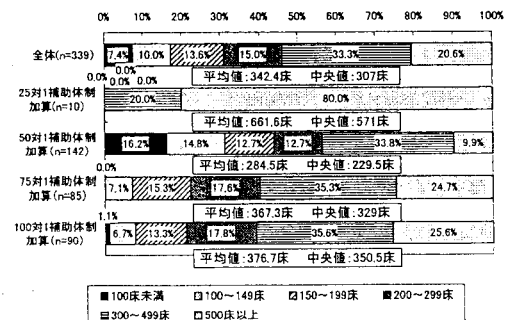
図表 65 医師事務作業補助体制加算の種類



医師事務作業補助体制加算種類別病床規模についてみると、全体では「300～499床」(33.3%)が最も多く、次いで「500床以上」(20.6%)、「200～299床」(15.0%)となり、平均は342.4床(中央値307)であった。

施設基準別にみると、25対1補助体制加算では「500床以上」(80.0%)が最も多く、次いで「300～499床」(20.0%)となり、平均は661.6床(中央値571)であった。他と比べて、大規模病院の割合が高い結果となった。また、50対1補助体制加算では「300～499床」(33.8%)が最も多く、次いで「100床未満」(16.2%)、「100～149床」(14.8%)となり、平均は284.5床(中央値229.5)であり、すべての加算の種類の中で最も平均値が低かった。次に、75対1補助体制加算では「300～499床」(35.3%)が最も多く、次いで「500床以上」(24.7%)、「200～299床」(17.6%)となり、平均は367.3床(中央値329)であった。100対1補助体制加算では「300～499床」(35.6%)が最も多く、次いで「500床以上」(25.6%)、「200～299床」(17.8%)、平均は376.7床(中央値350.5)であった。75対1補助体制加算と100対1補助体制加算については、病床規模は似たような分布状況と平均値であった。

図表 67 医師事務作業補助体制加算種類別 病床規模



5) 医師事務作業補助者（専従者）の人数と給与総額

1施設あたりの医師事務作業補助者数（実人数）と給与総額（常勤）の平均についてみると、全体では「実人数」が5.0人、「（うち）医療従事経験者」が1.0人、「（うち）医療事務経験者」が2.9人、「給与総額」が119.8万円であった。なお、1人あたりの給与額は24.0万円であった。

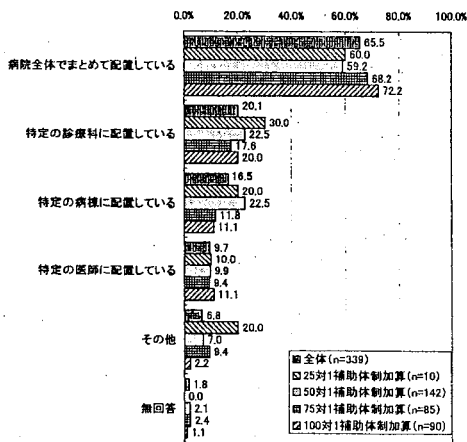
図表 68 1施設あたりの平均・医師事務作業補助者数（実人数）と給与総額（常勤）

	全体	25対1 補助体制 加算	50対1 補助体制 加算	75対1 補助体制 加算	100対1 補助体制 加算	不明
施設数（件）	235	7	101	63	59	5
①実人数（人）	5.0	28.1	5.1	4.2	2.9	5.2
②（うち）医療従事経験者（人）	1.0	0.0	1.7	0.7	0.3	2.4
③（うち）医療事務経験者（人）	2.9	20.0	2.6	2.3	2.2	2.0
④給与総額（万円）	119.8	675.9	122.6	99.6	68.2	144.2
⑤1人あたり給与額（④/①）（万円）	24.0	24.0	24.1	23.9	23.3	27.7

6) 医師事務作業補助者の配置状況

医師事務作業補助者の配置状況についてみると、全体では、「病院全体でまとめて配置している」（65.5%）が最も多く、次いで、「特定の診療科に配置している」（20.1%）、「特定の病棟に配置している」（16.5%）、「特定の医師に配置している」（9.7%）となった。  
加算種類別にみると、「100対1補助体制加算」と「75対1補助体制加算」では「病院全体でまとめて配置している」という割合が他の加算種類と比較して相対的に高くなっている。一方、「25対1補助体制加算」や「50対1補助体制加算」では「特定の診療科に配置している」や「特定の病棟に配置している」という割合が他の加算種類と比較して相対的に高くなっている。

図表 70 医師事務作業補助者の配置状況（複数回答）



1施設あたりの医師事務作業補助者数（実人数）と給与総額（非常勤）についてみると、全体では「実人数」が2.6人、「（うち）医療従事経験者」が0.3人、「（うち）医療事務経験者」が0.9人、「給与総額」が37.4万円であった。なお、1人あたりの給与額は14.5万円であった。

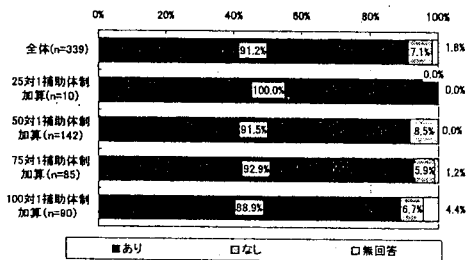
図表 69 1施設あたりの平均・医師事務作業補助者数（実人数）と給与総額（非常勤）

	全体	25対1 補助体制 加算	50対1 補助体制 加算	75対1 補助体制 加算	100対1 補助体制 加算	不明
施設数（件）	148	7	61	33	41	6
①実人数（人）	2.6	10.7	2.7	1.6	2.1	0.1
②（うち）医療従事経験者（人）	0.3	0.0	0.6	0.2	0.2	0.1
③（うち）医療事務経験者（人）	0.9	2.0	1.2	0.4	0.9	0.0
④給与総額（万円）	37.4	183.7	38.1	22.1	29.1	1.3
⑤1人あたり給与額（④/①）（万円）	14.5	17.1	13.9	13.8	14.0	11.4

7) 医師事務作業補助者が従事している業務の内容

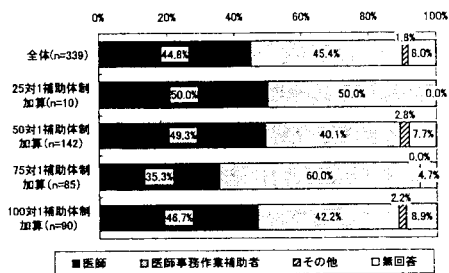
「診断書などの文書作成補助」について医師事務作業補助者の従事状況を見ると、全体では、医師事務作業補助者の従事が「あり」が91.2%、「なし」が7.1%であった。  
加算種類別にみると、25対1補助体制加算では「あり」が100%であった。他の3つの加算種類の施設でも「あり」との回答が9割前後を占めた。

図表 71 医師事務作業補助者の従事状況  
～①診断書などの文書作成補助～



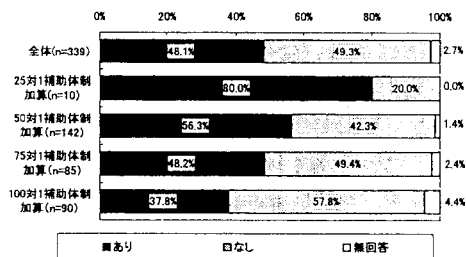
「診断書などの文書作成（補助）」における各事務作業の主たる担当者についてみると、全体では「医師」が44.8%、「医師事務作業補助者」が45.4%と同程度となった。  
 加算種類別にみると、75対1補助体制加算では「医師」が35.3%、「医師事務作業補助者」が60.0%となっており、「医師事務作業補助者」の割合が高い結果となった。

図表 72 各事務作業の主たる担当者  
 ～①診断書などの文書作成（補助）～



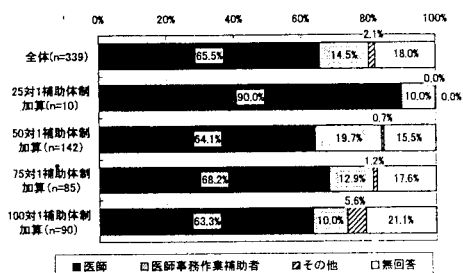
「診療記録への代行入力」について医師事務作業補助者の従事状況を見ると、全体では医師事務作業補助者の従事が「あり」が48.1%、「なし」が49.3%と同程度となった。  
 加算種類別にみると、「あり」の割合は、25対1補助体制加算では80.0%であるが、50対1補助体制加算では56.3%、75対1補助体制加算では48.2%、100対1補助体制加算では37.8%と加算種類が低くなるほど、「あり」の割合も低くなるという傾向がみられた。

図表 73 医師事務作業補助者の従事状況  
 ～②診療記録への代行入力～



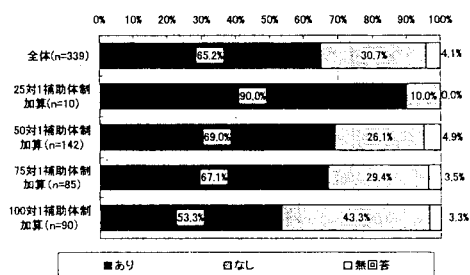
「診療記録への（代行）入力」における各事務作業の主たる担当者についてみると、全体では、「医師」が65.5%、「医師事務作業補助者」が14.5%、「その他」が2.1%であった。  
 加算種類別にみると、25対1補助体制加算では90.0%が「医師」という回答であった。この他、50対1補助体制加算、75対1補助体制加算、100対1補助体制加算では、「医師」という回答が6割強から7割弱程度となった。

図表 74 各事務作業の主たる担当者  
 ～②診療記録への（代行）入力～



「医療の質の向上に資する事務作業」について医師事務作業補助者の従事状況を見ると、全体では医師事務作業補助者の従事が「あり」が65.2%、「なし」が30.7%であった。  
 加算種類別にみると、「あり」という割合は、25対1補助体制加算では90.0%、50対1補助体制加算では69.0%、75対1補助体制加算では67.1%、100対1補助体制加算では53.3%と加算種類が低くなるほど、「あり」の割合も低くなるという傾向がみられた。

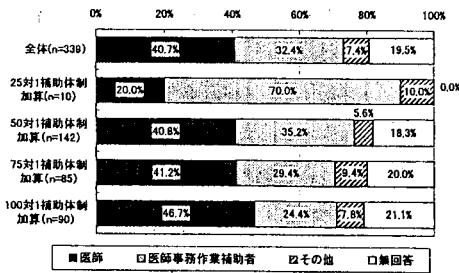
図表 75 医師事務作業補助者の従事状況  
 ～③医療の質の向上に資する事務作業～



「医療の質の向上に資する事務作業」における各事務作業の主たる担当者についてみると、全体では、「医師」が40.7%、「医師事務作業補助者」が32.4%、「その他」が7.4%であった。

加算種類別にみると、25対1補助体制加算では「医師事務作業補助者」(70.0%)が「医師」(20.0%)よりも大幅に上回っているが、50対1補助体制加算、75対1補助体制加算、100対1補助体制加算では「医師」が「医師事務作業補助者」よりも多くなっている。

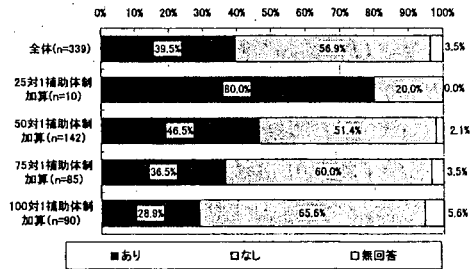
図表 76 各事務作業の主たる担当者  
～③医療の質の向上に資する事務作業～



「行政上の業務(救急医療情報システムへの入力等)」について医師事務作業補助者の従事状況をみると、全体では、医師事務作業補助者の従事が「あり」が39.5%、「なし」が56.9%であった。

加算種類別にみると、「あり」という回答割合は、25対1補助体制加算では80.0%、50対1補助体制加算では46.5%、75対1補助体制加算では36.5%、100対1補助体制加算では28.9%と、加算種類が低くなるほど、「あり」の割合も低くなるという傾向がみられた。

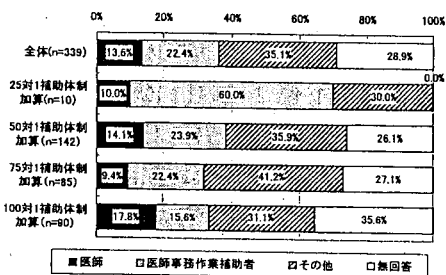
図表 77 医師事務作業補助者の従事状況  
～④行政上の業務(救急医療情報システムへの入力等)～



「行政上の業務(救急医療情報システムへの入力等)」における各事務作業の主たる担当者についてみると、全体では「医師」が13.6%、「医師事務作業補助者」が22.4%、「その他」が35.1%であった。

加算種類別にみると、25対1補助体制加算を除くと、いずれの加算種類でも「その他」が最も多いが、25対1補助体制加算では「医師事務作業補助者」が60.0%と突出して高くなっているのが特徴である。

図表 78 各事務作業の主たる担当者  
～④行政上の業務(救急医療情報システムへの入力等)～

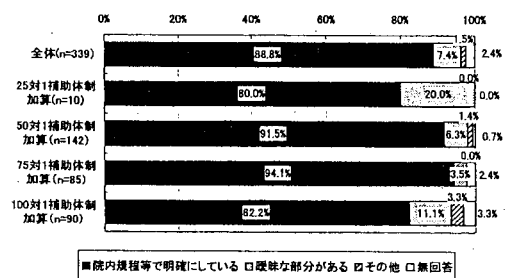


8) 医師事務作業補助者の業務範囲の明確化

医師事務作業補助者の業務範囲の明確化についてみると、全体では「院内規程等で明確にしている」が88.8%、「曖昧な部分がある」が7.4%であった。

加算種類別にみると、25対1補助体制加算、100対1補助体制加算では「院内規程等で明確にしている」が他と比較して若干低く(それぞれ80.0%、82.2%)、「曖昧な部分がある」が他と比較して相対的に高く(それぞれ20.0%、11.1%)になっている。

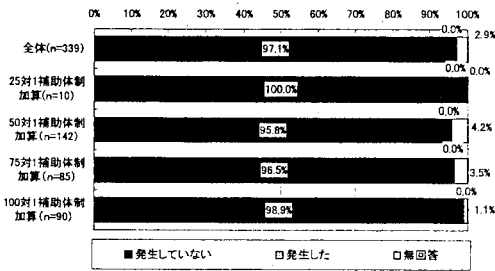
図表 79 医師事務作業補助者の業務範囲の明確化



9) 個人情報保護上の問題発生の有無

個人情報保護上の問題発生の有無についてみると、全体では「発生していない」が97.1%で、「発生している」はなかった。

図表 80 個人情報保護上の問題発生の有無

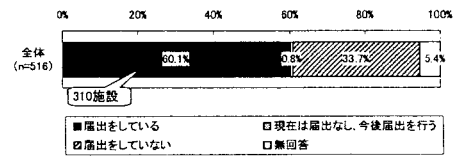


①ハイリスク分焼管理加算について

1) ハイリスク分焼管理加算の届出状況

ハイリスク分焼管理加算の届出状況についてみると、「届出をしている」が60.1% (310施設)、「現在は届出なし、今後届出を行う」が0.8%、「届出をしていない」が33.7%であった。

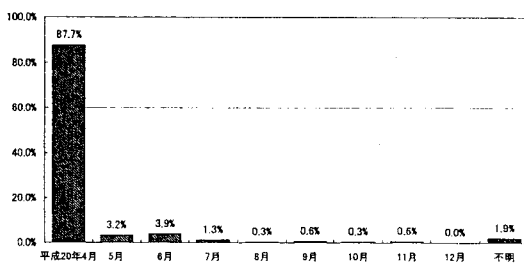
図表 81 ハイリスク分焼管理加算の届出状況



2) ハイリスク分焼管理加算の届出が受理された時期

ハイリスク分焼管理加算の届出が受理された時期についてみると、「平成20年4月」(87.7%)が最も多く、次いで、「6月」(3.9%)、「5月」(3.2%)となった。

図表 82 ハイリスク分焼管理加算の届出が受理された時期 (n=310)



3) 分焼件数

1施設あたりの分焼件数についてみると、平成20年9月、10月では前年同月と比較して、わずかながら増加した。

図表 83 分焼件数 (n=305)

(単位：件)

年	月	平均値	標準偏差	最大値	最小値	中央値
		平成19年	8月	52.9	44.6	615.0
平成20年	9月	51.0	40.2	517.0	0.0	44.0
	10月	52.8	44.3	618.0	0.0	45.0
	8月	52.6	44.0	631.0	0.0	46.0
平成20年	9月	53.9	44.3	615.0	0.0	48.0
	10月	53.6	46.0	646.0	0.0	46.0

(注) 分焼件数について欠損値のない305件を対象に集計を行った。

4) ハイリスク分焼管理加算算定回数

ハイリスク分焼管理加算算定回数についてみると、平成20年8月、9月、10月は前年同月と比較して2倍近い算定回数となっている。

図表 84 ハイリスク分焼管理加算算定回数 (n=269)

(単位：回)

年	月	平均値	標準偏差	最大値	最小値	中央値
		平成19年	8月	10.2	14.9	119.0
平成20年	9月	10.3	14.7	93.0	0.0	4.0
	10月	11.2	16.0	98.0	0.0	6.0
	8月	20.4	25.1	163.0	0.0	13.0
平成20年	9月	20.8	26.5	253.0	0.0	15.0
	10月	21.3	26.8	231.0	0.0	15.0

(注) 分焼件数について欠損値のない269件を対象に集計を行った。

(3) 医師責任者調査 - 医師調査の結果概要

【調査対象等】

調査対象：「施設調査」の対象病院に1年以上勤務している診療科責任者及びその他の医師。1施設につき医師責任者最大8名（各診療科につき1名×最大8診療科）、医師最大24名（各診療科につき3名×最大8診療科）。  
 回答数：医師責任者票 2,389件  
 医師票 4,227件

※参考：開設主体の内訳

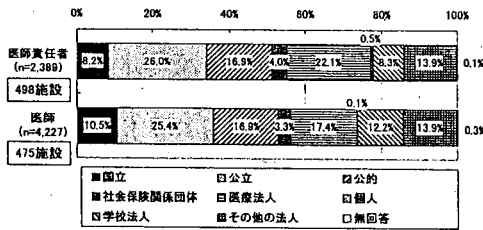
国立	厚生労働省、独立行政法人国立病院機構、国立大学法人、独立行政法人労働者健康福祉機構、その他（国）
公立	都道府県、市町村、地方独立行政法人
公的	日本赤十字社、済生会、北海道社会事業協会、全国厚生農業協同組合連合会、国民健康保険団体連合会
社会保険関係団体	全国社会保険協会連合会、厚生年金事業振興団、船員保険会、健康保険組合及びその連合会、共済組合及びその連合会、国民健康保険組合
その他の法人	公益法人、社会福祉法人、医療生協、会社、その他の法人

①医師が勤務する施設の属性

1) 開設主体

開設主体についてみると、医師責任者では「公立」(26.0%)が最も多く、次いで「医療法人」(22.1%)、「公的」(16.9%)、「その他の法人」(13.9%)であった。医師も同様で、「公立」(25.4%)が最も多く、次いで「医療法人」(17.4%)、「公的」(16.9%)、「その他の法人」(13.9%)であった。

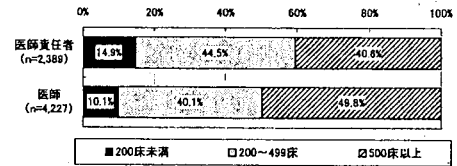
図表 85 開設主体



2) 許可病床数

許可病床数による病床規模についてみると、医師責任者では「200~499床」(44.5%)が最も多く、次いで「500床以上」(40.6%)、「200床未満」(14.9%)の順であった。医師では「500床以上」(49.8%)が最も多く、次いで「200~499床」(40.1%)、「200床未満」(10.1%)の順であった。

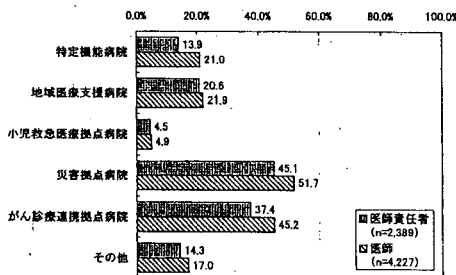
図表 86 許可病床数による病床規模



3) 病院種別

病院種別についてみると、医師責任者、医師ともに「災害拠点病院」(それぞれ45.1%、51.7%)が最も多く、次いで「がん診療連携拠点病院」(37.4%、45.2%)、「地域医療支援病院」(20.6%、21.9%)、「特定機能病院」(13.9%、21.0%)、「その他」(14.3%、17.0%)、「小児救急医療拠点病院」(4.5%、4.9%)となった。

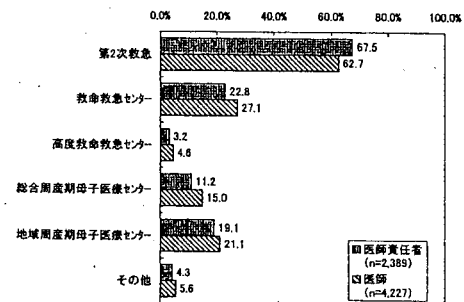
図表 87 病院種別 (複数回答)



4) 救急医療体制

救急医療体制についてみると、医師責任者、医師ともに「第2次救急」(それぞれ67.5%、62.7%)が最も多く、次いで「救命救急センター」(22.8%、27.1%)、「地域周産期母子医療センター」(19.1%、21.1%)、「総合周産期母子医療センター」(11.2%、15.0%)、「高度救命救急センター」(3.2%、4.6%)となった。

図表 88 救急医療体制 (複数回答)

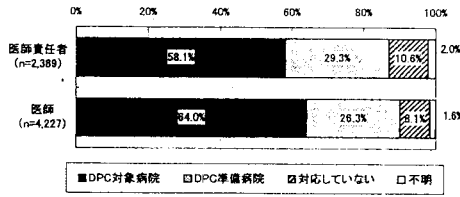




5) DPC 対応の状況

DPC 対応の状況についてみると、医師責任者では「DPC 対象病院」が 58.1%、「DPC 準備病院」が 29.3%、「対応していない」が 10.6%であった。医師では「DPC 対象病院」が 64.0%、「DPC 準備病院」が 26.3%、「対応していない」が 8.1%であった。

図表 89 DPC 対応の状況

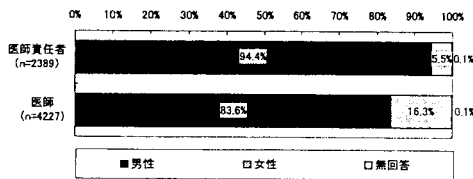


②医師の基本属性

1) 医師の性別

医師の性別についてみると、医師責任者では「男性」が 94.4%、「女性」が 5.5%であった。医師では「男性」が 83.6%、「女性」が 16.3%であった。

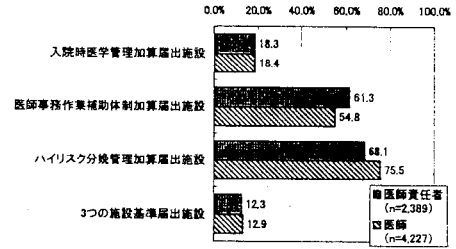
図表 91 医師の性別



6) 施設基準届出

施設基準届出状況についてみると、医師責任者、医師ともに「ハイリスク分鏡管理加算届出施設」(それぞれ 68.1%、75.5%) が最も多く、次いで「医師専務作業補助体制加算届出施設」(61.3%、54.8%)、「入院時医学管理加算届出施設」(18.3%、18.4%) となった。なお、「3つの施設基準届出施設」はそれぞれ 12.3%、12.9%であった。

図表 90 施設基準届出状況 (複数回答)



2) 医師の年齢

医師の年齢についてみると、医師責任者の平均は 51.6 歳 (標準偏差 7.0、中央値 52.0)、医師の平均は 40.1 歳 (標準偏差 7.8、中央値 40.0) であった。

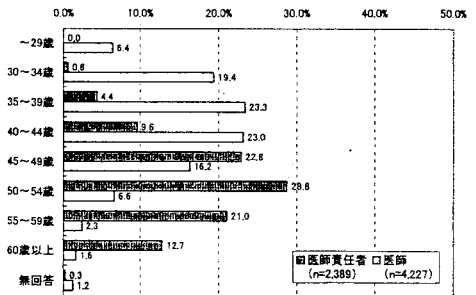
年齢の分布についてみると、医師責任者では「50~54 歳」(28.8%) が最も多く、次いで「45~49 歳」(22.8%)、「55~59 歳」(21.0%) であった。医師では「35~39 歳」(23.3%) が最も多く、次いで「40~44 歳」(23.0%)、「30~34 歳」(19.4%) であった。

図表 92 医師の年齢

	平均値	標準偏差	最大値	最小値	中央値
医師責任者 (歳)	51.6	7.0	87.0	32.0	52.0
医師 (歳)	40.1	7.8	81.0	25.0	40.0

(注) 医師責任者 n=2,383、医師 n=4,178

図表 93 医師の年齢



3) 医師としての経験年数

医師としての経験年数についてみると、医師責任者の平均は26.1年（標準偏差7.0、中央値25.8）、医師の平均は14.4年（標準偏差7.4、中央値14.0）であった。

図表 94 医師としての経験年数

	平均値	標準偏差	最大値	最小値	中央値
医師責任者(年)	26.1	7.0	60.0	2.0	25.8
医師(年)	14.4	7.4	50.0	1.0	14.0

(注) 医師責任者 n=2,376、医師 n=4,098

4) 調査対象病院での勤続年数

調査対象病院での勤続年数についてみると、医師責任者の平均は11.4年（標準偏差8.2、中央値9.8）、医師の平均は5.5年（標準偏差4.9、中央値3.8）であった。

図表 95 調査対象病院での勤続年数

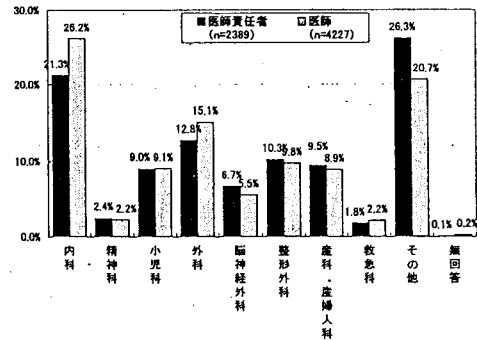
	平均値	標準偏差	最大値	最小値	中央値
医師責任者(年)	11.4	8.2	70.7	1.0	9.8
医師(年)	5.5	4.9	47.5	1.0	3.8

(注) 医師責任者 n=2,389、医師 n=4,227

5) 医師の主たる担当診療科

医師が担当する主たる診療科についてみると、医師責任者、医師ともに「内科」（それぞれ21.3%、26.2%）が最も多く、次いで「外科」（12.8%、15.1%）、「整形外科」（10.3%、9.8%）、「産科・産婦人科」（9.5%、8.9%）、「小児科」（9.0%、9.1%）、「脳神経外科」（6.7%、5.5%）、「精神科」（2.4%、2.2%）であった。

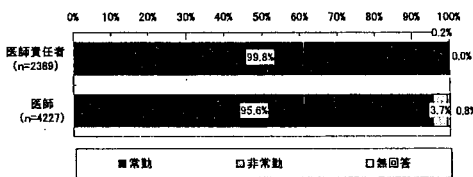
図表 96 医師の主たる担当診療科



6) 勤務形態

勤務形態についてみると、医師責任者、医師ともに9割以上が「常勤」であった。

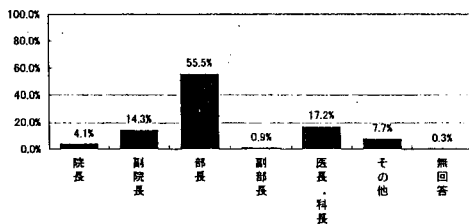
図表 97 勤務形態



7) 医師責任者の役職等

医師責任者における役職についてみると、「部長」（55.5%）が最も多く、次いで「医長・科長」（17.2%）、「副院長」（14.3%）であった。

図表 98 医師責任者の役職 (n=2,389)



医師責任者1人が管理する医師の人数についてみると、男性医師の平均は7.2人（標準偏差9.9、中央値4.0）、女性医師の平均は2.3人（標準偏差3.8、中央値1.0）であった。

図表 99 医師責任者1人が管理する医師の人数

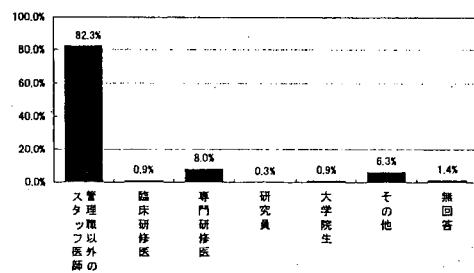
	平均値	標準偏差	最大値	最小値	中央値
男性医師(人)	7.2	9.9	120.0	0.0	4.0
女性医師(人)	2.3	3.8	64.0	0.0	1.0

(注) 男性医師人数についての有効回答数は n=2,244、女性医師人数についての有効回答数は n=1,723 であった。

8) 医師の役職等

医師における役職についてみると、「管理職以外のスタッフ医師」（82.3%）が最も多く、次いで「専門研修医」（8.0%）であった。

図表 100 医師の役職 (n=4,227)

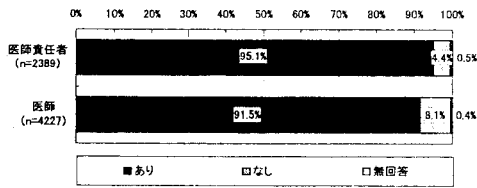


③医師の勤務実態等

1) 外来診療担当の有無

外来診療担当の有無についてみると、医師責任者では外来診療担当が「あり」が95.1%、「なし」が4.4%であった。医師では「あり」が91.5%、「なし」が8.1%であった。

図表 101 外来診療担当の有無



医師1人あたり1日の平均外来診療患者数についてみると、医師責任者は平均32.6人(標準偏差17.2、中央値30.0)、医師は平均28.0人(標準偏差14.9、中央値25.0)であった。

図表 102 医師1人あたり1日の平均外来診療患者数

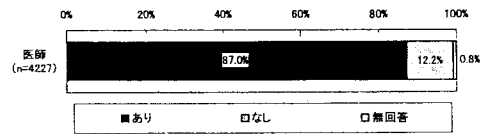
	平均値	標準偏差	最大値	最小値	中央値
医師責任者(人)	32.6	17.2	180.0	0.5	30.0
医師(人)	28.0	14.9	139.0	0.5	25.0

(注) 医師責任者 n=2,170、医師 n=3,683

2) 入院診療における担当患者の有無等(医師票のみ)

医師の入院診療における担当患者の有無についてみると、入院診療における担当患者が「あり」が87.0%、「なし」が12.2%であった。

図表 103 入院診療における担当患者の有無



医師1人あたりの担当入院患者数についてみると、平均は10.9人(標準偏差10.4、中央値10.0)であった。

図表 104 医師1人あたりの担当入院患者数(平成20年10月末現在、n=3,524)

	平均値	標準偏差	最大値	最小値	中央値
医師(人)	10.9	10.4	320.0	0.5	10.0

3) 直近1週間の実勤務時間

直近1週間の実勤務時間についてみると、医師責任者は平均58.0時間(標準偏差14.9、中央値57.6)、医師は平均61.3時間(標準偏差18.3、中央値60.0)であった。

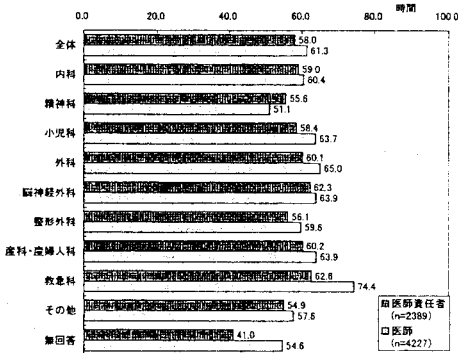
図表 105 直近1週間の実勤務時間

	平均値	標準偏差	最大値	最小値	中央値
医師責任者(時間)	58.0	14.9	120.0	0.0	57.6
医師(時間)	61.3	18.3	128.0	0.3	60.0

(注) 医師責任者 n=2,278、医師 n=3,963

診療科別に直近1週間の実勤務時間をみると、医師責任者では「救急科」(62.6時間)が最も長く、次いで「脳神経外科」(62.3時間)、「産科・産婦人科」(60.2時間)、「外科」(60.1時間)であった。医師では「救急科」(74.4時間)が最も長く、次いで「外科」(65.0時間)、「脳神経外科」と「産科・産婦人科」(ともに63.9時間)、「小児科」(63.7時間)、「脳神経外科」(産科・産婦人科) (62.3時間)、「内科」(60.4時間)であった。

図表 106 診療科別 直近1週間の実勤務時間(平均)



4) 1か月あたりの当直回数及び連続当直回数

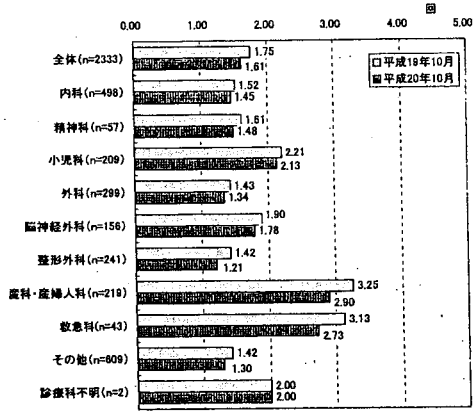
医師責任者における、平成20年10月1か月あたりの当直回数についてみると、「産科・産婦人科」が2.90回(標準偏差3.21、中央値2.00)と最も多く、次いで「救急科」が2.73回(標準偏差2.95、中央値2.00)、「小児科」が2.13回(標準偏差2.48、中央値1.00)、「脳神経外科」が1.78回(標準偏差1.88、中央値1.00)であった。いずれの診療科においても、平成19年10月と比較して若干ではあるが少なくなっている。

図表 107 1か月あたり当直回数(医師責任者)

		平均値	標準偏差	最大値	最小値	中央値
全体	平成19年10月	1.75	2.20	18.00	0.00	1.00
	平成20年10月	1.61	2.15	18.00	0.00	1.00
内科	平成19年10月	1.52	1.71	10.00	0.00	1.00
	平成20年10月	1.45	1.73	10.00	0.00	1.00
精神科	平成19年10月	1.61	2.50	12.00	0.00	1.00
	平成20年10月	1.48	2.50	13.00	0.00	0.50
小児科	平成19年10月	2.21	2.42	10.00	0.00	2.00
	平成20年10月	2.13	2.48	12.00	0.00	1.00
外科	平成19年10月	1.43	1.66	10.00	0.00	1.00
	平成20年10月	1.34	1.63	10.00	0.00	1.00
脳神経外科	平成19年10月	1.90	1.95	9.00	0.00	2.00
	平成20年10月	1.78	1.88	9.00	0.00	1.00
整形外科	平成19年10月	1.42	1.73	12.00	0.00	1.00
	平成20年10月	1.21	1.70	13.00	0.00	1.00
産科・産婦人科	平成19年10月	3.25	3.44	13.00	0.00	2.00
	平成20年10月	2.90	3.21	13.00	0.00	2.00
救急科	平成19年10月	3.13	2.98	10.00	0.00	2.00
	平成20年10月	2.73	2.95	10.00	0.00	2.00
その他	平成19年10月	1.42	1.97	18.00	0.00	1.00
	平成20年10月	1.30	1.99	18.00	0.00	0.00
診療科不明	平成19年10月	2.00	2.83	4.00	0.00	4.00
	平成20年10月	2.00	2.83	4.00	0.00	4.00

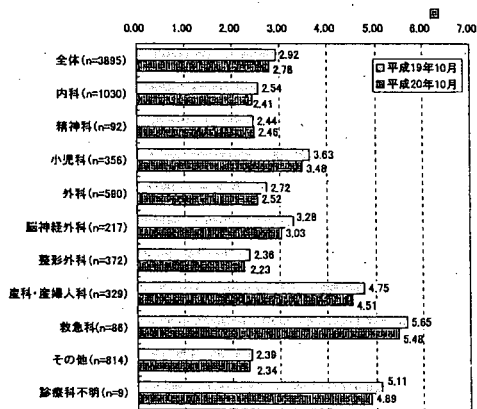
(単位:回)

図表 108 1 か月あたり平均当直回数 (医師責任者)



(注) 平成19年10月及び平成20年10月ともに欠損値のないデータを対象に集計を行った。

図表 110 1 か月あたり平均当直回数 (医師)



(注) 平成19年10月及び平成20年10月ともに欠損値のないデータを対象に集計を行った。

医師における、平成20年10月1か月あたり平均当直回数についてみると、「救急科」が5.48回(標準偏差2.77、中央値6.00)と最も多く、次いで「産科・産婦人科」が4.51回(標準偏差3.26、中央値4.00)、「小児科」が3.48回(標準偏差2.39、中央値3.00)、「脳神経外科」が3.03回(標準偏差2.07回、中央値3.00)であった。「精神科」を除く、いずれの診療科においても、平成19年10月と比較して若干ではあるが少なくなっている。

図表 109 1 か月あたり当直回数 (医師)

(単位: 回)

		平均値	標準偏差	最大値	最小値	中央値
全体	平成19年10月	2.92	2.32	18.00	0.00	3.00
	平成20年10月	2.78	2.24	15.00	0.00	2.00
内科	平成19年10月	2.54	1.69	10.00	0.00	2.00
	平成20年10月	2.41	1.63	10.00	0.00	2.00
精神科	平成19年10月	2.44	2.14	10.00	0.00	2.00
	平成20年10月	2.46	2.41	12.00	0.00	2.00
小児科	平成19年10月	3.63	2.36	11.00	0.00	4.00
	平成20年10月	3.48	2.39	11.00	0.00	3.00
外科	平成19年10月	2.72	1.81	12.00	0.00	2.00
	平成20年10月	2.52	1.77	12.00	0.00	2.00
脳神経外科	平成19年10月	3.28	2.47	18.00	0.00	3.00
	平成20年10月	3.03	2.07	10.00	0.00	3.00
整形外科	平成19年10月	2.36	1.72	15.00	0.00	2.00
	平成20年10月	2.23	1.60	8.00	0.00	2.00
産科・産婦人科	平成19年10月	4.75	3.40	15.00	0.00	5.00
	平成20年10月	4.51	3.26	15.00	0.00	4.00
救急科	平成19年10月	5.65	2.73	13.00	0.00	6.00
	平成20年10月	5.48	2.77	13.00	0.00	6.00
その他	平成19年10月	2.39	2.28	15.00	0.00	2.00
	平成20年10月	2.34	2.22	13.00	0.00	2.00
診療科不明	平成19年10月	5.11	3.89	10.00	0.00	4.00
	平成20年10月	4.89	4.01	10.00	0.00	4.00

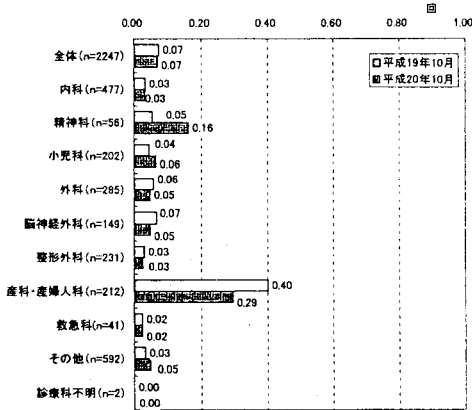
医師責任者における、平成20年10月1か月あたりの連続当直回数の平均についてみると、「産科・産婦人科」が0.29回(標準偏差0.96、中央値0.00)と最も多く、次いで「精神科」の0.16回(標準偏差0.85、中央値0.00)であった。

図表 111 1 か月あたり連続当直回数 (医師責任者)

(単位: 回)

		平均値	標準偏差	最大値	最小値	中央値
全体	平成19年10月	0.07	0.51	15.00	0.00	0.00
	平成20年10月	0.07	0.43	10.00	0.00	0.00
内科	平成19年10月	0.03	0.20	2.00	0.00	0.00
	平成20年10月	0.03	0.19	2.00	0.00	0.00
精神科	平成19年10月	0.05	0.30	2.00	0.00	0.00
	平成20年10月	0.16	0.85	6.00	0.00	0.00
小児科	平成19年10月	0.04	0.44	6.00	0.00	0.00
	平成20年10月	0.06	0.47	5.00	0.00	0.00
外科	平成19年10月	0.06	0.28	2.00	0.00	0.00
	平成20年10月	0.05	0.25	2.00	0.00	0.00
脳神経外科	平成19年10月	0.07	0.34	3.00	0.00	0.00
	平成20年10月	0.05	0.24	2.00	0.00	0.00
整形外科	平成19年10月	0.03	0.20	2.00	0.00	0.00
	平成20年10月	0.03	0.23	3.00	0.00	0.00
産科・産婦人科	平成19年10月	0.40	1.40	15.00	0.00	0.00
	平成20年10月	0.29	0.96	10.00	0.00	0.00
救急科	平成19年10月	0.02	0.16	1.00	0.00	0.00
	平成20年10月	0.02	0.16	1.00	0.00	0.00
その他	平成19年10月	0.03	0.23	3.00	0.00	0.00
	平成20年10月	0.05	0.33	4.00	0.00	0.00
診療科不明	平成19年10月	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	平成20年10月	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

図表 112 1か月あたり連続当直回数の平均（医師責任者）



(注) 平成19年10月及び平成20年10月ともに欠損値のないデータを対象に集計を行った。

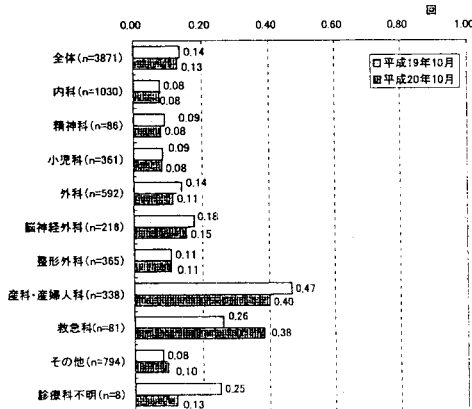
医師における、平成20年10月1か月あたりの連続当直回数の平均についてみると、「産科・産婦人科」が0.40回（標準偏差0.87、中央値0.00）と最も多く、次いで「救急科」の0.38回（標準偏差1.02、中央値0.00）であった。多くの診療科では、平成19年と比較すると少なくなっているが、「救急科」では多くなっている。

図表 113 1か月あたり連続当直回数（医師）

(単位：回)

診療科	調査期間	平均値	標準偏差	最大値	最小値	中央値
全体	平成19年10月	0.14	0.60	15.00	0.00	0.00
	平成20年10月	0.13	0.53	10.00	0.00	0.00
内科	平成19年10月	0.08	0.41	6.00	0.00	0.00
	平成20年10月	0.08	0.37	4.00	0.00	0.00
精神科	平成19年10月	0.09	0.36	2.00	0.00	0.00
	平成20年10月	0.08	0.38	3.00	0.00	0.00
小児科	平成19年10月	0.09	0.35	3.00	0.00	0.00
	平成20年10月	0.08	0.36	3.00	0.00	0.00
外科	平成19年10月	0.14	0.58	6.00	0.00	0.00
	平成20年10月	0.11	0.45	5.00	0.00	0.00
脳神経外科	平成19年10月	0.18	0.67	6.00	0.00	0.00
	平成20年10月	0.15	0.51	3.00	0.00	0.00
整形外科	平成19年10月	0.11	0.52	6.00	0.00	0.00
	平成20年10月	0.11	0.45	4.00	0.00	0.00
産科・産婦人科	平成19年10月	0.47	1.22	15.00	0.00	0.00
	平成20年10月	0.40	0.87	5.00	0.00	0.00
救急科	平成19年10月	0.26	0.67	3.00	0.00	0.00
	平成20年10月	0.38	1.02	5.00	0.00	0.00
その他	平成19年10月	0.08	0.50	8.00	0.00	0.00
	平成20年10月	0.10	0.59	10.00	0.00	0.00
診療科不明	平成19年10月	0.25	0.71	2.00	0.00	0.00
	平成20年10月	0.13	0.35	1.00	0.00	0.00

図表 114 1か月あたり連続当直回数の平均（医師）



(注) 平成19年10月及び平成20年10月ともに欠損値のないデータを対象に集計を行った。

5) 所属病院以外での勤務の有無（医師のみ）

医師における所属病院以外での勤務の有無についてみると、全体では、所属病院以外での勤務が「あり」が32.6%、「なし」が63.4%であった。多くの診療科においてはほぼ同程度の割合であったが、「精神科」および「救急科」では、「あり」（それぞれ56.8%、41.8%）の割合が他の診療科と比較して高い結果となった。

図表 115 所属病院以外での勤務の有無

